

Welcome to Saidai

2014年も残すところ2ヶ月余り、11月から12月にかけて埼玉大学ではイベントが目白押しです。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



埼玉大学教育学部 音楽専修生による市民のための音楽会 第11回埼玉大学フレッシュコンサート

日曜日の午後、教育学部音楽専修生による生のクラシック音楽を楽しんでみませんか

- 日 時 11月16日(日) 14時~(開場13時30分)
- 会 場 埼玉りそな銀行本店講堂
(JR京浜東北線北浦和駅西口下車徒歩7分)
- 定 員 300名／先着順(就学前のお子様のご入場はご遠慮ください)
- お問い合わせ先 埼玉大学事務局 TEL:048-858-9228



第65回むつめ祭 ~埼色兼魅(さいしょくけんび)~

サークルなどによる企画や模擬店の出店、芸能人などによるステージ企画などイベントが盛りだくさん！また受験生を応援する企画もあります。皆様お誘い合わせの上、是非お越し下さい！

- 日 時 11月22日(土)~24日(月/祝)
22日／12時~20時、23・24日／10時~20時
- 会 場 埼玉大学構内
- 内 容 模擬店、フリーマーケット、お笑いライブ、子ども企画、受験生応援企画、bingo、音楽ライブ、ミスコンなど
- お問い合わせ先 埼玉大学むつめ祭常任委員会
TEL:048-858-2112 HP: <http://mutsume.com>
※車でのご来場はご遠慮ください。



埼玉大学教育学部 音楽教育講座教員による演奏会 第15回 音楽の贈りもの

埼玉大学教育学部音楽教育講座の教員が、クラシック音楽の演奏をお届けします

- 日 時 12月6日(土) 14時~(開場13時30分)
- 会 場 彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール
(JR埼京線与野本町駅西口下車徒歩7分)
- 定 員 600人／先着順(就学前のお子様のご入場はご遠慮ください)
- お問い合わせ先 埼玉大学教育学部総務係 TEL:048-858-3142



秋も深まり、若山牧水の句「白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけれ」が心にしみる頃合いになってきました。季節の味覚においしいお酒、静かに嗜むよし、みなでワイワイ楽しむよし。そこで飲むお酒が、埼大ブランド日本酒「鳳翔閣」ならなおよし。小説P1~2に詳述しましたが、ぜひこれを機にご賞味ください。

NewsLetter

共生のVision 知と技を社会につなぐ

6ヵ年計画である埼玉大学改革構想「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革」が実質的にスタートして約半年が経ちました。「研究力強化」「人材育成の強化」を両軸に、大学機能の質的・量的レベルアップを図るために改革プランが着実に実行されています。「埼玉大学はすごい」と自他ともに認められる大学になることを改革の概念的な目標としていますけれど、何をもって埼大はすごいのか、埼大の強みは何か、軸足をどこに置くのかを、いま改めて考えてみたいと思います。

「埼玉県にある、 全国的に強い埼玉大学」 と言われるように、改革を進めます。



埼玉大学長 山口 宏樹

CONTENTS

Preview Point

埼大発、地域イノベーション商品。
鳳翔閣を飲んだ後、稻庭餃子を締めていかが？ 01-02
埼玉大学ブランド日本酒「鳳翔閣」／大麦食品

ここに注目! Close up

有用な形質を持つ植物の開発を目指し、
転写因子遺伝子を研究 03
大学院理工学研究科 戰略的研究部門 池田 美穂 准教授

Message from a graduate

卒業生からのメッセージ 04
プロサイクルロードレーサー 佐野 淳哉

Information I

なんでも相談室 05
さいだいスポット21

The pride of SU

日本で世界で活躍する埼大生 06

The Focus

Awesome! 留学! 07-08
— 学問だけではない、グローバル思考を育む留学 —
column
埼玉大学インターナショナルレジデンス(国際学生寮)新設に向けて

Focus of activation

埼玉大学の主な出来事 09-10



埼大発、地域イノベーション商品。 鳳翔閣を飲んだ後、 稻庭餡飴を締めでいかが？



念願の「埼玉生まれ埼玉育ち」の銘酒が誕生

埼玉大学ブランドとして初めて世に出された日本酒は『鳳翔閣』と名付けられた。鳳翔閣は埼玉大学の伝統の象徴であり、埼玉県の教育のシンボル、さらにさいたま市をホーム・グラウンドとするプロサッカーチーム浦和レッズのエンブレムにも使われている、いわば埼玉県を語るに外せない象徴的建築物の名称だ。その名が冠されたこの酒

には、酒造りに携わったすべての者の期待が集約されていた。

埼玉県は、清酒出荷・生産量が全国4位（平成25年度・国税庁統計）、「東の灘」といわれるほど酒どころ。豊饒な土地と水源に恵まれ、古くから多くの蔵元が銘酒を造り続けてきた。しかし、酒の素になる米は県産米の使用が10%とわずかで、蔵元からの

は県内産清酒の独自性を出すために、埼玉県産の酒造好適米の出現が待ち望まれていた。その期待に応えたのが埼玉県農林総合研究センターだ。12年の年月をかけた品種改良により、ついに2007年待望の地元酒造好適米「さけ武藏」が開発、品種登録された。さらに埼玉県産業技術総合センターは高香性・多酸性に特長のある「埼玉酵母」を開発し、地元産材料による酒造りの背中を押した。

一方、埼玉大学では産学官連携協議会が醸造酒研究会を立上げ、大学院理工学研究科と教育学部の教授陣が、土壤や地質・水質研究、香り成分研究、利き酒官能評価といった基礎研究に携わり、地元産材料による地元の酒造りのための知見を提供することで貢献した。また実際の酒造りでは、前述の埼玉県2研究機関に加え、JAさいたま・埼玉県酒造組合、熊谷農協、地元蔵元3社が協力体制を組み、埼大オープンイノベーションセンターがその取りまとめ役を担い開発が進められた。そして2011年2月、さまざまなコラボレーションが実り、埼玉生まれ埼玉育ちの日本酒「鳳翔閣」が完成したのだ。

当時のオープンイノベーションセンターでコーディネーターとして奔走した東海林さんを引き継ぎ、同センターでコーディネーターを務める大久保さんは、発売4年目を迎えた鳳翔閣の現在をこう語った。「日本酒の研究で知られる、芝浦工大の古川教授にもおいしいと言つていただいた酒なのですが、販路が小さく地酒の域を出ていないのが残念ですね。少なくとも浦和・埼大近辺の飲食店にはどこでも常に置いてあるくらいにしたいと販促営業策を練っています」。



▲写真左

埼玉大学「鳳翔閣」吟酿酒 蔵元:株式会社金屋
原料米を55%まで磨き、丁寧に醸した、上品な香りとやわらかで落ち着いた味わいが特長。

▲写真中央

埼玉大学「鳳翔閣」本酿造酒 蔵元:内木酒造株式会社
軽やかですっきりとした、飲みやすく飲みあきない味わい。

▲写真右

埼玉大学「鳳翔閣」純米酒 蔵元:株式会社藤崎總兵衛商店
秩父山系伏流水を仕込み水として、米のうまみをたっぷり引き出した、上品で飲みあきない味わい。



大麦食品

いまの時代だからこそ、大麦食品の復活・普及を担う

埼玉大学産学官連携協議会は2010年に大麦食品研究会を立ち上げた。埼玉県で生産収穫された大麦を使用し、大麦の健康機能性を発信するとともに、現代の食生活に応用できる食品を開発することを目的としていた。

大麦は奈良時代以降、日本各地で広く栽培され、麦ご飯のほか麦茶、ビール、焼酎などの原料として使われてきた。しかし、戦後の食生活の変化などさまざまな要因で、日本の食用大麦の生産および使用頻度は激減してしまった。その結果、かつては大麦から摂取できていたビタミンや食物繊維(β-グルカン)は、他の食材またはサプリメントから摂らざるを得なくなっていた。

大麦食品研究会はまず、小麦粉と同様に麺やパンなど主食品に使ってもらえる大麦粉の開発から着手した。β-グルカン含有量の高い新品種を用い、製粉工程では粉碎の制御、麦特有の黒条線を除く工程を加えることで、粒子や色調で小麦粉と変わらない大麦粉の製造に成功した。次は大麦粉を使ってもらうためのPR・販促活動だ。埼大教育学部家政専攻学生や女子栄養大学の



「ボトルネックは大麦粉自体の価格と安定供給への不安ですね。健康機能性や品質への理解はされていますから、量産体制で価格を下げるなど課題を解決していくには取引も増えていくと思います。産学官連携の地道なPR活動も続けていきます」(大

久保さん)

現在、商品化され常時販売されているのは、「埼玉大学大麦力稻庭餡飴」(秋田県・株式会社後文)、「大麦力パン」(ボンドール北浦和店)、「大麦力ハイブレッド」(埼玉県・福祉法人一粒)など数点にすぎないが、パン類は常食用として地域に定着してきた。食文化の啓蒙には長い時間がかかると思われる。点から面への地道なPR活動がこれからも求められている。2012年「フード・アクション・ニッポンアワード」優秀賞受賞。2013年には「埼玉大麦食品普及・食のモデル地域実行協議会」が農水省の「食のモデル地域構築計画」に認定され、商品開発、販路開拓などの支援が受けられることになった。埼大発「大麦食品」の今後が期待される。



商品化されて定着したと思えるのは「大麦力パン」ですが、2013年の「むつめ祭」の模擬店で供したパスタは大好評で、新装された第2食堂の教職員専用食堂でそのパスタをメニューに加える計画もあります。「鳳翔閣」も「稻庭餡飴」もまだ贈答用、お土産用の感覚です。いつでも飲んだり食べたりするところでももっていきたいですね。PR活動も機能性や品質だけでなく、地産地消の意味では地域の風土・文化を絡めてアプローチしてゆきたいと考えています。何にも増して大きなPRになるのは、埼大関係者がもっと「大麦食品」と「鳳翔閣」を自ら体験して、それを外に発信してくれることだと思っています。

有用な形質を持つ植物の開発を目指し、転写因子遺伝子を研究

祝 受賞

2014年度 日本植物細胞分子生物学会 奨励賞 『植物転写抑制因子の分子機能および生物学的機能の解明』

PROFILE	池田 美穂 MIHO IKEDA
1997年	筑波大学第二学群生物学類 卒業
2003年	筑波大学大学院生物科学研究科博士課程 修了
2003年～2005年	国際科学振興財団 研究員
2006年～2010年	産業技術総合研究所 ポスドク
2011年～2013年	日本学術振興会 特別研究員(RPD)
2014年～	埼玉大学大学院理工学研究科 準教授

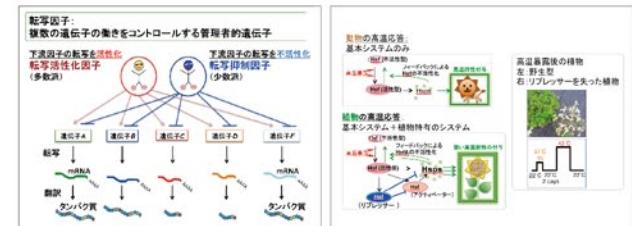
受賞歴
2003年 日本植物細胞分子生物学会 学生奨励賞
2014年 日本植物細胞分子生物学会 奨励賞



植物を利用するため、 その基盤コントロールシステムを解明

植物は大切な資源であり、食物や衣類、住居、医薬品(漢方薬)、工業材料として、私たちの生活に利用されるとともに、美しい形や色、香りで人を癒してきました。また、植物を原材料とするバイオ燃料や、植物によって環境汚染を浄化するファイトレメディエーションは、地球環境保全と持続的な社会発展に不可欠です。効率よく安全に、植物を利用するためには、その能力の基盤となるシステムを学ぶことが大切であると私たちは考え、さまざまな植物システムをコントロールする転写因子遺伝子を研究しています。

「転写因子」とは、他の遺伝子の働きを統括的に制御する管理職的遺伝子の総称で、すべての生物に存在しており、各生物の全遺伝子の3～10%程度を占めます。私たちの研究材料であるシロイヌナズナの場合、全遺伝子約2万個の約10%(約2000遺伝子)が転写因子です。この2000個の転写因子がそれぞれ個別の現象をコントロールすることで、1個体のシロイヌナズナが産まれてから死ぬまでの生命現象が進行します。また、転写因子の中には、アクセルのように他の遺伝子の働きを活性化するアクティベーターと、逆に、ブレーキのように不活性化するリプレッサーがあります(図参照)。これまでには主にアクティベーターの働きが注目されてきましたが、近年、私たちの研究により、多様なリプレッサーの存在が明らかになり、重要性が示されつつあります。



植物の高温応答システムにおける転写因子の役割

リプレッサーが重要な機能を果たす現象の1つは「植物の高温応答システム」です。高温は生命を脅かすストレスのひとつですが、特に植物は、動物のように移動して高温を回避できないため、より強い高温に耐える能力を必要とします。実際、シロイヌナズナは、動物と共通の基本的な高温応答システムと、植物特有のシステムからなる、二段階の高温応答システムを獲得しています(図参照)。高温にさらされると、まず、基本システムの中心となるHsfが活性化され、高温から身を守るヒートショックタンパク質(HSP)ができます。植物の場合、基本システムは、2段階目の高温応答システムの中心である高温応答アクティベーターとリプレッサー

も活性化し、アクティベーターがさらに多くのHSPを作ります。他方、リプレッサーは、高温応答反応を終息させ、植物を速やかに平常状態にもどします(図参照)。一見、リプレッサーは高温応答に対して負の役割をしている様に見えますが、実際には、リプレッサーを失った場合、植物は高温に弱くなりました。高温応答を抑制するリプレッサーが、高温耐性獲得に必須であるという事実は、学術的に興味深いとともに、地球温暖化に適応した高温耐性農作物の作出にも役立つと思われます。

植物の生長は、アクセル役とブレーキ役の 転写因子のバランスで決まる

また、リプレッサーは「植物の細胞伸長」にも重要です。植物の細胞伸長は、樹高・草丈・葉・実などの大きさを決めるだけではなく、日なた・日陰などの環境に合わせた生長や、花が咲く・倒れると上を向くといった現象にも関与します。私たちは細胞を伸ばす2種類の転写因子(PRE1、ACE)と、細胞の伸びを抑制する1種類の転写因子(IBH1)をシロイヌナズナから発見しました。このうちACEはアクティベーターであり、細胞を伸ばす酵素遺伝子の働きを活性化して細胞の伸びを誘導します。しかし、リプレッサーであるIBH1がACEに結合すると、ACEの働きは阻害され、細胞は伸びません。他方、リプレッサーであるPRE1がIBH1に結合すると、IBH1はACEと結合できなくなり、自由になったACEによって細胞が伸長します。ふたつのリプレッサーを含む3種類のタンパク質の量のバランスが細胞の長さを決めるという研究成果は、学術的に興味深いとともに、草丈や葉・実のサイズを変更するなど、応用にも役立ち、実際に私たちはこの知見を基盤としてコンパクトで物質生産性の高い植物の開発に成功しています。

この他にもリプレッサーが植物の枝・葉の数や、細胞分化制御に関わっていることも私たちは明らかにしつつあります。植物に関する知識を深め、その知識を社会に還元することをめざして、私たちは現在も研究を行っています。



満足はできないかもしないが、納得するまでは走り続けたい。

卒業生
からの
メッセージ

プロサイクリスト 佐野 淳哉

Junya Sano

2005年3月 経済学部経営学科卒業
静岡県清水市出身

「高校時代は吹奏楽部でコントラバスを弾いていました。スポーツサインを意識したのは、兄が愛知から清水の実家までスポーツ車で帰省したときのこと。でも、かっこいいと思ったくらいで、将来自分がプロになるなど考えてもいませんでした。専大に入学して最初の部活は管弦楽団ですからね」

どん底状態から再起、全日本を制す。

2014年6月、岩手県八幡平で行われた国内における自転車ロードレースの最高峰と謳われる「全日本自転車競技選手権ロードレース・エリート男子部門」で優勝し、全日本チャンピオンという栄冠を獲得しました。自身初のビッグタイトル、表彰台の真ん中で、万感胸に迫り、こみ上げる涙をこらえることができませんでした。その時点での所属は、栃木県北東部の那須町近隣を拠点とする「那須ブレーゼン」という結成2年目の新生チーム。専大卒業と同時にチーム・ブリヂストンアンカーとプロ契約を結んだのを皮切りに、プロレーサーとしてペダルを踏み続けて10年。その間、国内外のチーム移籍を繰り返して7つのチームでした。

1年前のシーズンは、UCIプロコンチネンタルチーム「ヴィーニ・ファンティニ=セッレ・イタリア」に所属していたのですが、意気込んでイタリアに乗りこんで行ったものの、思うような成績を挙げられず、失意のなか帰国していました。自転車を辞めようかと思い悩んでいるところに声をかけてくれたのがブレーゼンでした。これまでのチームと比べれば、コンチネンタル登録もない、練習環境も縮小と、格落ちになるわけですから、どん底状態から再起を期すのなら、この辺からやり直そうと、なによりも必要としてくれたことに応えようと若いチームに飛び込みました。

まさかその年に全日本をとれるとは思っていませんでしたけれど、走る喜びを思い出して、肩の力が抜けてレースに臨めたのが良かったのだと思います。

Message from a graduate

2005年 卒業と一緒にブリヂストンアンカーとプロレーサー契約

2006年～「チーム ヤフージャパン」「エキップ アサダ」等に所属し、ヨーロッパステージ参戦

2008年～「チーム NIPPO・ENDEKA」「NIPPO・COLNAGO」等に所属、海外・国内レースに参戦

2011年 「チーム NIPPOダンジェロアンティヌティ」にて参戦、ジャパンカップ3位

2013年～イタリア UCIプロコンチネンタルチーム「ヴィーニ・ファンティニ=セッレ・イタリア」に所属。ヨーロッパステージ参戦。

2014年～新チーム「那須ブレーゼン」のエースとして国内レースに参戦

2014年 全日本自転車競技選手権ロードレース・エリート男子部門優勝



なんでも相談室 さいだいスポット21

学生のあらゆる悩み相談に、親身に対応、支援しています。



埼玉大学ではすべての学生のあらゆる相談に対応するため「なんでも相談室 さいだいスポット21」を設置しています。

大学に入学すると、それまでの生活より活動範囲も広がり、また自立的に行動することも増え、多様な友人・隣人との交流など人間関係も格段に広がっていきます。その結果、新しい世界も開け、また新たな友人関係を築くこともできます。しかし同時に今まで経験しなかったようないろいろな困難に直面することも増えてきます。学生生活で直面する問題は種々の原因が絡み合って起きることも多く、どのように解決していくか分からなくなることもあります。

どこに相談したらよいか分からないとき、誰に相談したらよいか分からないとき、そのようなときには、ぜひ「なんでも相談室」に足を運んでいただきたいと思います。「なんでも相談室」には臨床心理士を含め3人の相談員があり、さまざまな方面から悩み事を考え、学内の他の部署とも連携をとりつつ、相談者とともに解決の糸口を探っていきます。

◆◆◆◆◆ 場所・開室時間 ◆◆◆◆◆
研究機構棟1階 月～金 9:00～17:00
※火・木の10時から17時は臨床心理士が在室します。

《たとえば こんな相談があります》

修学・進路

勉強に身が入らない。
論文・レポートが書けない。
大学院進学について悩んでいる。
就職活動で悩んでいる。

キャンパスライフ

友人ができない。
アルバイト先でトラブルに巻き込まれた。
教員とのコミュニケーションがうまくできない。
食欲がない、眠れない。



学生表彰

日本で世界で活躍する埼大生

学術研究や課外活動の場で、埼大生が大活躍しています。



所属	氏名	サークル名等	受賞内容等	大会名等
理工学研究科	神山 元美	---	ベストポスター賞	第30回エアロゾル科学・技術研究討論会
理工学研究科	HUANG CHENGCHENG	---	鈴木紘一メモリアル賞(優秀プレゼンテーション賞)	第86回日本生化学会大会
理工学研究科	田中 尚志	---	鈴木紘一メモリアル賞	第86回日本生化学会大会
理工学研究科	斎藤 雄介	---	優秀ポスター賞	第40回有機典型元素化学討論会
理工学研究科	藤田 孝	---	優秀ポスター賞	The 5th International Conference on O-CHA(Tea)culture and Science(ICOS2013)
理工学研究科	田中 亮吉	---	Student Paper Award	2013 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications(NOLTA2013)
理工学研究科	中田 麻理沙	---	ポスター賞	第17回ケイ素化学協会シンポジウム
理工学研究科	鶴田 徹	---	優秀ポスター発表賞	第3回CSJ化学フェスタ2013
理工学研究科	手塚 俊博	---	優秀ポスター発表賞	第3回CSJ化学フェスタ2013
理工学研究科	山木 やさか	---	「科学技術への顕著な公演2012(ナイスステップな研究者)」受賞	科学技術政策研究所選定
理工学研究科	青山 裕之	---	学生研究優秀発表賞	第11回マイクロ波学生研究発表会
理工学研究科	高橋 里枝	---	第9回OPJベストプレゼンテーション賞	日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2013 (OPJ2013)
理工学研究科	奥石 卓哉	---	優秀講演賞	2013年度砥粒加工学会学術講演会
理工学研究科	高橋 直希	---	計測自動制御学会RTミドルウェア賞、サマーキャンプ賞、優秀RT技術賞	RTミドルウェアコンテスト2013
理工学研究科	山口 翔平	---	学生講演賞	錯体化学会第63回討論会
理工学研究科	黒田 隼	---	Best Paper Award	2014 International Workshop on Advanced Image Technology(IWAIT2014)
理工学研究科	大橋 一樹	---	優秀講演賞	2013年度砥粒加工学会学術講演会
理工学研究科	泰地 理沙	---	スピーチコンテスト奨励賞	第29回日本セラミックス協会関東支部研究発表会
教育学部	草間 奈瑠美	---	絵画の部 特選	第13回 福知山市 佐藤太清賞公募美術展
教育学研究科	柏木 健佑	---	二紀賞	第67回二紀展
理学部	植木 典子	---	優秀学生ポスター発表賞	第13回アジア転写会議
教育学部	金子 瑛美	柔道部	57kg級 準優勝	平成25年度全日本学生柔道体重別選手権大会



理工学研究科
神山 元美
(かみやま もとみ)

第30回 エアロゾル科学・技術研究討論会 ベストポスター賞

近年、越境大気汚染として大気中の微小粒子(PM2.5)が大きな話題となりました。私は、このPM2.5を含む大気浮遊粒子“エアロゾル”に含まれる有害成分、多環芳香族炭化水素(PAHs)の新たな分析手法の開発に関する研究を行っています。エアロゾルを専門に取り扱う「日本エアロゾル学会」が実施した「第30回エアロゾル科学・技術研究討論会 2013」において、自身の研究成果を発表しました。その結果、学会参加者による投票でベストポスター賞を受賞しました。



理工学研究科
HUANG CHENGCHENG
(ファン チェンчен)

第86回 日本生化学会大会 鈴木紘一メモリアル賞 (優秀プレゼンテーション賞)

私は「埼玉大学－理研連携プロジェクト」の理化学研究所・糖鎖代謝学研究チームで研究を行っています。研究テーマは「哺乳動物の細胞質に存在する糖鎖脱離酵素の研究」で、細胞質に存在する二つの糖鎖脱離酵素PNGaseとENGaseの研究です。研究室ではPNGase欠損マウスが致死になり、その致死性がENGaseの欠損によって回避される、という結果を見出しています。私はその分子メカニズムを解明するために、細胞レベルで研究を進めています。





Awesome! 留学!

— 学問だけではない、グローバル思考を育む留学 —
広報室学生サポートスタッフが2人の「留学経験者」にその魅力を訊く



大塚 現在進行形で埼大に留学されているデジレーさんと留学経験者の松井さんを前にして、オーラをヒシヒシ感じているのですが、今日はお二人の留学での体験や思うことをお聞きして、留学を希望する学生を持つ保護者、留学生に興味のある企業の方々に、留学のメリットなどを伝えできたらと思います。よろしくお願ひします。

外国語を修得するには、ネイティブな環境に身を置くのが一番

大塚 最初に、どんなきっかけで留学に踏み切ったのですか?

デジレー 3年前に2週間だけ観光で日本に来て、そのときから日本の大学へ留学するのが目標になり、今回実現できました。大学間のパートナーシップでトリノ大

から埼大に留学するのは私が初めてになります。

松井 実は英語が苦手で、理学部は大学院に進学しても英語が世界の共通言語としても重要なため、その苦手意識を克服して読み書き会話を身に付けようと留学に踏み切りました。だから英語圏の大学というのはひとつの条件でした。

大塚 英語がダメだったんですか? だから敢えて行くというのもひとつの手ですね。英語が全然できない私でもすごく勇気づけられます。

デジレー 外国語はその場所に行って、ネイティブな人と話さないと覚えないで。埼大の授業も外国語はNG。全部日本語。間違っていてもいいから日本語で話します。そうやってだんだん覚えます。でも漢字を書くのはなかなか難しいですね。ひとつずつ字にいろいろな意味がありますし。

大塚 日本での授業はどうですか?

デジレー 専攻は日本のポピュラーカルチャーです。現在のリアルな日本文化を題材にするので、とても惹きつけられ面白いです。先生が授業に日本のお菓子を持ってくれたり、フレンドリーな雰囲気づくりをしてくれます。留学生にそれぞれの出身国の特長のある文化を披露してもらう

授業もありました。だからとても和やかで楽しいですよ。

大塚 アメリカの授業はどうでしたか?

松井 学期が始まる前に1学期分の授業内容がPPTで送られてきてビックリしました。予習しておくようにと。予習の習慣は学生全体に浸透している感じでしたね。専攻は生体制御・時計生物学で、時差ぼけなどを起こす体内時計、体内リズムを遺伝子レベルで研究しています。日米の授業の違いは内容より進め方に見られました。先生が話しても、学生は質問があれば構わず手を挙げて発言するんです。そこで白熱してディスカッションが始まりました。進み具合なんてまるで関係なし。言葉はもちろん英語しか使えません。テストやレポートといったライティングは考える時間があるのでそれほど苦にならなかったのですが、瞬間的な受け答えの日常会話の方が慣れるまで難しかったですね。

勉強はいつでもできる。生活体験は現地でしかできない。

大塚 大学や授業以外で面白い体験はありますか?

松井 国際寮に外国人留学生3人とルー



留学生

Desree Benini (デジレー ベニーニ)
交換留学生
在籍大学:トリノ大学(イタリア)
留学期間:2014年4月~2015年3月



留学経験あり

松井 修平 Syuhei Matsui
理学部 生体制御学科 4年 東京都出身
留学先:イリノイ大学スプリングフィールド校(アメリカ)
留学期間:2013年8月~2014年5月



インタビュー(広報室学生サポートスタッフ)
大塚 愛真 Aima Ohtsuka
経済学部経営学科 2年

ムシェアしていたので、その後シカゴやニューオーリンズなどいろんなところに遊びに行ったり、アメリカ人の友人宅でホームパーティーしたり日常生活面でもさまざまな体験をしました。



デジレー 日本に来てまだ半年ですけれど、私も浴衣を着て祭りに参加したり、茶摘みを体験したり、ウィンドウショッピングを楽しんだり、日本の伝統文化から今のカルチャーまでを肌で感じることで大忙しだす。日本人の行動でちょっとビックリしたのは、電車の中で荷物をわざに置いて眠っている、レストランでも荷物を置いて席を離れる。これはイタリアでは絶対にやりませんね。



松井 そう、それはアメリカでもやらない。日本がいかに安全か海外に出て生活してみると分かりますね。それから体験ではないけれど、スポーツ観戦を行ったときに応援の仕方や意識せずにやっている行動が、まったく違和感がないんです。生活に慣れて現地に馴染んで溶け込んでいる自分を発見して、ちょっとうれしかったですね。

デジレー その感覚は分かります。夏休みにイタリアに帰ったのですが、周りはイタリア語ばかり。自分が外国人になったような変な感じ。

大塚 それだけお二人ともそれぞれの留学先の生活に馴染んでいたということですね。

デジレー 留学はもちろん勉強が主目的ですけれど、同じくらい現地で生活体験することが大切だと思います。勉強はいつでもできるけれど、生活のいろいろな体験はそこできかないですから。私はあと6ヶ月、それでも足りないと思っています。

松井 まったくその通りで、最低でも1年は必要ですね。可愛い子どもには旅をさせろというように、未知の世界に挑んでくるわけで、メンタル面はかきつとたくましくなって帰ってきますよ。

グローバル展開に、世界観の広い留学経験者が役立つ。

大塚 留学経験を活かして、今後実現したいことはありますか?

デジレー 私は翻訳者を目指しています。イタリアには日本作家の作品のイタリア語版がほとんどないのです。村上春樹や吉本ばなの小説をイタリアの多くの人に読んでもらうのが夢ですね。実は日本の漫画も大好き。とくに少女漫画がいいですね。できれば留学中に日本の出版社でインターン



Column

埼玉大学インターナショナルレジデンス(国際学生寮)新設に向けて

埼玉大学は、2013年に「埼玉大学基金」を設立しました。この基金は「埼玉大学インターナショナルレジデンス(国際学生寮)」の新設を目的的としています。

埼玉大学は、現在約9,000名の学生のうち500名を超える外国人留学生を有しています。

今後、幅広い視野と課題解決能力を備えたグローバル人材の質的・量的充実に向け、日本人学生に留学の機会を多く与えるとともに、外国人留学生を積極的に受け入れ、日常的に日本人学生の国際意識の高揚に資する環境を整備します。この一環として、これら学生の双方向の交流の場となる混住型の「国際学生寮」を平成31年度(本学創立70周年)までに新設します。

何卒、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

*埼玉大学基金の詳細は、ホームページをご覧ください。[埼玉大学基金](#) [検索](#)





2014.04.02
平成26年度新任教職員研修を開催

新任教職員に対し、大学運営に関する理解を深め、教職員としての役割の認識、意識の高揚を図ることを目的とした研修です。今年度は新任教職員40名が参加しました。



2014.04.11
研究機構研究企画推進室 前田慎市助教が「第23回日本航空宇宙学会 奨励賞」を受賞

本賞は、航空・宇宙工学と航空宇宙産業のために、若い優秀な研究者を幅広く育成することを目的として、35歳未満の若手研究者に対して毎年1名～3名に授与されるものです。今回、研究論文「Analysis of Thermal Efficiency of Non-Compressor Type Pulse Detonation Turbine Engines」において、独創性と発展性に富む業績をあげたことが評価されました。



2014.04.17
「レジリエント社会研究センター」発足式を開催

4月1日に新設された「レジリエント社会研究センター」の発足式を、総合研究棟シアター教室において開催しました。本センターは、激甚災害の世界的な増加を背景に、防災・減災工学にかかる研究に加え、災害から社会が速やかに回復するための研究推進を図るために、複合科学的見地から真のレジリエント社会構築に向けて必要な研究を行い、その成果の社会への還元を目指すことを目的に設置しました。



2014.04.18
工学部電気電子システム工学科 辻俊明准教授が「日本機械学会奨励賞(研究)」を受賞

本賞は日本機械学会が機械工学または広く産業社会に関わる研究上の業績をあげた新進研究者に授与されるものです。「人間支援ロボットのための力覚信号処理技術の研究」が独創性、新規性、発展性、また機械工学や産業社会への高貢献度が評価されました。

04



2014.07.11
「楽しいキャンバスライフを過ごすための交通事故・犯罪防止講習会」を開催

本講習会は埼玉県警のご協力の下、開催しました。キャッセールスやデータ商法などさまざまな犯罪防止策、また、自転車利用時の交通ルールやマナーについての詳しい説明があり、万が一の場合に備えて自分の身を守る術を参加者は学ぶことができ、大変有意義な講習会となりました。



2014.07.22
埼玉りそな銀行寄附講義で学生が銀行へ提言

埼玉りそな銀行の寄附講義「現代銀行経営論」(前期・全10回)の最終日を迎え、同銀行の池田一義代表取締役社長らの出席の下、この講義としては初の試みとなる「埼玉りそな銀行の『金融サービスにおいて』優れている点、それを深化させるためには?」をテーマとし、学生10グループが同銀行の現状など事前調査を基に提言を行いました。



2014.07.25
平成26年度「リーダーシップトレーニング」研修を開催

各サークルのリーダーを対象とし、リーダーとしての資質向上を図ることを目的とした「リーダーシップトレーニング」研修を開催しました。俳優や劇団四季の団員の経験を持つ櫻井秀樹氏の「リーダーシップとコミュニケーション」と題した講演と、埼玉県警からSNSでの誹謗中傷やネット詐欺に関する講演などがあり、142名の参加者は、最後まで熱心に耳を傾いていました。



2014.07.26
埼玉大学連続市民講座 part5 「今、環境について考える」がスタート

埼玉大学と読売新聞さいたま支局との共催による連続市民講座part5「今、環境について考える」がスタートしました。「環境」をめぐるさまざまな課題に焦点を当て、本学が持つ研究成果や学問的知見をもとに、7月から12月までの間で全6回開催します。毎回研究分野の異なる教員が講義を行います。

10



2014.04.18
防犯講習会を開催

総合研究棟シアター教室において、女子学生・女性教職員を対象に『防犯講習会』を開催しました。埼玉県警の防犯指導班「ひまわり」の女性警察官とイメージキャラクターのボボ美ちゃんとボップ君が、性犯罪やひったくに対する「女性のためのセルフディフェンス」について、具体例を演出しながら説明されました。



2014.05.07
第2食堂リニューアルオーブン

第2食堂がリニューアルオーブンしました。このリニューアルにより、①席の増設による混雑解消、②利用者の動線交錯の解消、③バリアフリー化、④多目的利用への対応、など大きな改善が施されています。また、翌日8月にはリニューアルオーブンを記念して、山口学長や井上埼玉大学生活協同組合理事長ら出席の下、完成披露会が盛大に行われました。



2014.05.15
埼玉県「先端産業創造プロジェクト」に埼玉大学が参画

埼玉県との協定に基づき、県が展開する「先端産業創造プロジェクト」に参画し、地域企業・他大学・研究機関との連携による研究開発プロジェクトをスタートさせました。本学は、「次世代有機太陽電池の研究開発」「感染症及びがんの早期検出薬・診断薬の研究開発」をテーマとし、県内企業や研究機関等と連携して実用化・製品化を見据えた研究開発を実施します。



2014.05.17
「第4回埼大ワールドカップ」を開催

本イベントは、「フットサルを通して埼玉大学に来ている留学生と、埼玉県内の企業の交流を促進すること」を目的としており、今回で4回目の開催となりました。今大会は9つの企業チームと10カ国の中留學生チームなどが参加し、和気あいあいとした雰囲気の中、企業の方と留学生がともに汗を流して交流を深めました。また、今回はNHKからの取材もあり、世間的にも注目される大イベントとなりました。

05

2014.07.28
グリフィス大学との大学間学術交流協定に調印

オーストラリア・クイーンズランド州にキャンパスを持つ、グリフィス大学と本学との大学間学術交流協定調印式が行われました。これにより、毎年2名の学生が交換留学制度(授業料相互不徴収)により相互交流を行うことができます。

この他、メキシコ国立大学、メキシコ州立大学との間でも同様の協定が締結されました。



2014.07.29
研究機構研究企画推進室 前田慎市助教が「平成25年度衝撃波シンポジウム 若手プレゼンテーション賞」を受賞

日本衝撃波研究会・宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、青山学院大学、東北大学流体科学研究所が主催する「平成25年度衝撃波シンポジウム」において、前田助教の口頭発表をもつて、各分野を牽引する学者を「世界で影響力をを持つ学者」として3,200人に選出されました。



2014.07
大学院理工学研究科 高木 優教授がトムソン・ロイター社「論文の引用動向分析からみた、世界で影響力をを持つ科学者」約3,200人に選出される



2014.08.25-08.29
オープンキャンパス2014 summerを開催

8月25日～29日の5日間にわたり、各学部毎にオープンキャンパスを開催しました。(25日=教育学部、26日=教養学部、27日=工学部、28日=理学部、29日=経済学部)

学部・学科説明や入試説明、模擬授業、在学生体験談などが披露された外、今回初の試みとして、希望者を対象とした学生宿舎の見学会も行われました。

10



2014.05.28
本学学生4名が「官民協働海外留学支援制度～トピテイ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～」に採用

文部科学省および独立行政法人日本学生支援機構と民間の支援企業・団体の協働により新設された「官民協働海外留学支援制度～トピテイ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～」の第1期生として、本学の学生4名(大学院理工学研究科 2名、経済学部 2名)が採用されました。



2014.05.29
埼玉県立がんセンターと本学大学院理工学研究科が「教育研究の連携・協力に関する覚書」を改定

本学大学院理工学研究科は、埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所と、平成19年3月に締結した「埼玉県と国立大学法人埼玉大学との相互協力・連携に関する協定書」に基づき締結した、「教育研究の連携・協力に関する覚書」を、お互いの研究活動のより一層の活性化と推進を図り、生命科学および医療の発展に寄与することを目的として改定しました。



2014.06.09
埼玉大学産官連携協議会第15回定期総会及び産学連携事例発表会を開催

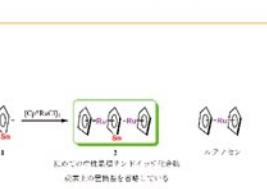
埼玉大学産官連携協議会は、県内企業と本学の研究とを有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的に設立されました。定期総会では、会長などの挨拶があり、続いて行われた産学事例発表会では、2件の講演と本学教員による研究成果の発表が行われました。交流会では、本協議会の「大麦食品研究会」「醸造酒研究会」が開発した、大麦力(パワー)食品(パン・パスタ)や「鳳翔閣」(埼玉大学ブランドの日本酒)が参加者に披露されました。



2014.06.23
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に係る連携協定を締結

本学は、昨年9月に開催が決定された2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に協力するため、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結しました。

12



スズを骨格に含む累積サンドイッチ化合物の合成に成功―新しい物性と触媒反応発見への展開に期待―

大学院理工学研究科 斎藤雅一教授らの研究グループは、スズを骨格に有するメタローラジニアオン(スタンノルジニアニオン)骨格を用い、從来のシクロベンタジエニルアニオンでは決して合成することができない中性の累積サンドイッチ化合物を合成し、その新しい性質を明らかにすることに成功しました。



2014.09.11
産学連携により「オンライン膜厚制御システムを組み込んだマイクロマシン用静電塗布装置」の共同開発に成功

大学院理工学研究科 福田司助教は、多くの電子デバイスの製造工程に用いられているレジスト膜の塗布速度の高速化・膜厚の均一性に対応するため、光学式で膜厚を大面積一括で高速する測定技術を確立し、これを組み込んだ静電塗布装置およびリアルタイム制御システムを開発しました。本開発はNEDOのイノベーション実用化ベンチャ支援事業の支援を受けて、株式会社アイテーと一緒に実施しました。



2014.09.13-09.14
「SAITAMA Smile Women フェス2014」に出展

9月13日、14日に開催された埼玉版ウーマニクスプロジェクト「SAITAMA Smile Women フェス2014」において、埼玉大学産官連携協議会「大麦食品研究会」が中心となって開発した「機能性大麦粉」を活用した「大麦稻庭うどん」や「大麦ハイブレッド」を出展しました。当日は本学マスコットキャラクター「メリちゃん」も応援に駆けつけ、ブースは多くの人が集まり賑わいを見せっていました。



2014.09.19
平成26年度学位授与式を挙行

本学大学会館において、9月に学部を卒業する学生および大学院を修了する学生の計55名(内留学生22名)を対象にした、平成26年度埼玉大学学位授与式を挙行しました。授与式は、役員・副学長・各学部・研究科長列席の下、山口宏樹学長から、学部卒業生・修士修了生代表者および博士課程を修了した16名へ、一人ひとり学位記が授与されました。

20

09
10
12
14
17
19
21
22
24

20